



志津南 news

志津南ホームページ
http://shizu373.net

志津南学区の人口 (1/5 現在)
世帯数 2,279 総人口 6,289 人
発行
志津南学区まちづくり協議会
Tel(fax) 077-563-6206
E-mail shizuminamimachi@gmail.com

回顧 わが町2018

- 【1月】
 - 7日 草津市消防出初式で若草1自主防災会が市長表彰を受ける。
 - 12日 まちづくりセンターで「グーグルストリートビュー」の屋内撮影。グーグルマップに登場。
 - 20日 滋賀県大津湖南エリア地域公共交通活性化協議会第2回ワークショップ開催。路線バスの運行テスト結果について意見交換。
 - 24日 猪飼剛若草診療所長（滋賀県医師会会長）が死去。68歳。
- 【2月】
 - 3日 社協が高齢ドライバー、特殊詐欺問題でセミナー開催。
 - 11日 まち協臨時総会。4月からまち協会費を戸建て500円、集合住宅400円減額を決める。
- 【3月】
 - 12日 志津南社協が米原で米原社協・大野木長寿村まちづくり会と交流会。
 - 25日 まち協が新旧理事と地域のボランティア団体と初の懇親会開催。
- 【4月】
 - 22日 まち協30年度定時総会開催。新会長に花澤仁左エ門氏（若草4）を再選。
 - 29日 春の叙勲で若草地区の大脇正美さんが旭日双光章、松本孝子さんが瑞宝単光章を受章。
- 【5月】
 - 12日 まち協理事会が草津市の指定管理者制度適用に伴う一般・特別2会計制度への移行を承認。
 - 26日 志津南緑化ボランティアの会が滋賀県都市緑化功労者知事表彰を受賞。
 - 31日 学区社協がかがやきの丘「ふれあい広場」を立ち上げる。
- 【6月】
 - 2日 まち協が第1回グループ会議開催。会計処理の変更に伴う活動費会計処理要領を説明。
- 【7月】
 - 1日 まち協、草津市の「地域ポイント制度」事業に参加を決定。30、31年度の2年間、まち協主催イベントなどにポイントカードを導入する。
 - 7日 まち協理事会、住民アンケートなどを踏まえた第2次行動計画を策定。
 - 28日 ふれあい夏まつりが台風接近で初の中止に。
- 【8月】
 - 1日 かがやきの丘こども会が自治会館きらりて初の夏休み映画鑑賞会を開催。
 - 19日 かがやきの丘町内会「かがやき祭り」、当日券発売の大にぎわい。
- 【9月】
 - 4日 台風21号直撃でまちづくりセンターに市が避難所を設置。センターのモニュメントなどに被害。
 - 17日 学区社協が高穂中吹奏楽部を招き、志津南小で敬老会開催。
- 【10月】
 - 6日 まち協が草津市の「がんばる地域応援交付金」申請を決める。防災避難訓練、環境美化活動の支援に活用。
 - 16日 甲賀市の希望ヶ丘自治振興会がまち協を視察。
- 【11月】
 - 17日 まちづくりセンターが「健康のまち草津モデル事業」参加に伴い、3回にわたって「ノルディックウォーキング講座」を草津川跡地公園などで開催。
 - 30日 まちづくりセンターのリフォーム日程決まる。12月から来年2月までを予定。

志津南学区まちづくり協議会（花澤仁左エ門会長）は12月22日、志津南まちづ

くりセンターで次年度の予算申請が必要な10団体を対象に第2回グループ会議を開催しました。今年度活動実績と決算書、来年度活動計画と予算書の提出期限が2月28日と示されました。



花澤会長から

役員負担軽減の方向を模索 第2回グループ会議で意見交換

くりセンターで次年度の予算申請が必要な10団体を対象に第2回グループ会議を開催しました。今年度活動実績と決算書、来年度活動計画と予算書の提出期限が2月28日と示されました。

見直しや会議のあり方など役員負担を軽減することも模索していきたいと提言がありました。続いての意見交換では、様々な意見が出され、有意義な会議となりました。

今年度の一斉清掃を無事に終えることができました。各町内会では、高齢化の波、ボランティア諸氏自体の高齢化、多様な価値観の存在、という問題が喫緊の課題となっています。「町内会活動に参加する＝義務」と考えてしまう事が多いのですが、「義務」では人は主体的に取り組みません。個人が「必要」と考えるから、主体的に取り組めるのだと思います。ましてや、年を取ると、何かと「めんどくさく」なるものです。「全体」が「幸せ」であっても、「個人」が「幸せ」であるとは限りません。しかし、「個々人」が「幸せ」であれば、必ず「全体」は「幸せ」と言えます。

このような観点に立って、価値観の多様性を認めつつ、一人でも多くの人に参加していただいて、持続可能な一斉清掃を心がけてきました。参加者があまり負担を感じず、談笑が飛び交う一斉清掃。そのために、枯葉一枚も取り残さないという完璧性を求めず、ボランティア諸氏のご協力を仰ぎつつ、町内の現状に即した方法で、一斉清掃にあたってきました。



若草・岡本西地区では冬の一斉清掃が12月2日、若草中央、東、西公園はじめ

冬は落ち葉の清掃が主ですが環境美化ボランティアの整備、前日の各町内会有志の事前草刈り作業のお陰で短時間で作業を終える事ができました。

「多様性の下の共生と持続可能な清掃活動」を目指して、一人でも多くの方々に主体的に一斉清掃に関わっていただけるような方策を見つけないかと考えています。（環境美化委員 田中耕一）

町内の皆様ならびにボランティア諸氏のご協力で、

一斉清掃に思う

酒造りの地訪ねる



の由来にもなった名水「伏水」(ふしみず)で醸される酒造りの地を訪れました。写真。



伏見は良質の豊富な地下水に恵まれ、酒造りの地として栄えてきました。今回の見学訪問先はその一つ、日本酒メーカー(株)黄桜の「伏水蔵」(ふしみづら)です。

志津南学区社協ボランティアグループ泉(藤田清子代表)は12月7日、一人暮らしの方々とふれあいパスターを楽しみました。参加者32人は伏見の地名

「(株)黄桜の「伏水蔵」(ふしみづら)です。ユーモラスな格好をしたカップのモニメントが迎えてくれました。河童と社名の黄桜にどんなつながり

バランスの良い食事を

健康推進員連絡協議会(荒木キクエ代表)は11月29日、



志津南まちづくりセンターで、男性のための料理講習会を実施しました。写真。

14人が参加しましたが、残念ながら男性は少数でした。料理が始まる前に、糖尿病予防の説明とジュースなどの糖分の摂りすぎや、一日350gの野菜の必要性を学びました。いつでもバランスの良い食事をとる事への理解を深めました。「塩分の加減が良く分か

がと不思議な面持ちで資料館へ。答えは、清水崑が描いた数々のスタイルの河童を社長が長期にわたりマスコットにしたことが始まりとか。

延暦寺を参拝

元気があがり、追分南町内会「元氣くらぶ」は11月27日、比叡山延



り、帰って家で作りたい「野菜をおいしく食べ大満足」楽しく交流ができ、次回もぜひ参加したい」との感想をいただきました。これからも、喜ばれるメニューを考えて、楽しい仲間づくりができる様な講習会を計画したいと思います。なお次回は1月26日(土)管理栄養士さんに学ぶ「免疫力アップの料理講習会」を予定しています。皆様のご参加、お待ちしております。

けという日本酒の骨格となる麴づくりの過程など映像をゆくりと鑑賞しました。その後、趣のある古い古民家風のレストランで食事。お正月用にとあれこれお酒を品定めし、重いお土産を手へ帰途につきました。

折々の記

時々、無性に猫に触れたくなる。思えば、もう何年も猫の居ない暮らしをして

が、好天に恵まれ過ぎやうい気温で、勾配のきつい参道でしたが、全員元気に最後まで参拝できました。屋敷は奥比叡ドライブウェイの峠道レストランで精進料理ならぬ近江牛のすき焼きと幕の内をいただき、巡礼で疲れた体を癒しました。帰りにはドライブウェイ沿道の見頃に染まった紅葉を車窓から眺めながら下山して、びわ湖大橋の道の駅で休憩&買い物をして帰路に着きました。

ノルディックウォーク 楽しむ会参加者募集

志津南まちづくりセンターは、平成30年度「健康のまち草津モデル事業」の助成金で、ノルディックウォーク用のポール20組を購入し、健康講座「ノルディックウォークへのお誘い」を3回開催しました。受講者へのアンケート結

果が好評でしたので、今後も「ノルディックウォークを楽しむ会」として継続した事業を4月から実施します。参加者を次の要領で募集します。

- ▽申込 1月末までに志津南まちづくりセンターへ 電話(563) 62006
- ▽内容 月2回、健脚コース・ぼちぼちコースの2グループでウォーキング
- ▽定員 先着20人
- ▽年会費 500円(保険代含む)
- ▽申込 1月末までに志津南まちづくりセンターへ 電話(563) 62006
- ▽内容 月2回、健脚コース・ぼちぼちコースの2グループでウォーキング
- ▽定員 先着20人
- ▽年会費 500円(保険代含む)



長らく一緒に過ごしたあの子(猫)は、ある日突然我が家に来て来た。小学校の高学年の頃だったろうか。朝登校する時に、家の近くの路地で迷い子猫を見つけた。まだ生まれて間もないだろうその子猫は、か細い声で「ニャーニャー」と鳴いていた。その子猫が気になるけれど、過去に拾って連れ帰った犬も猫も、ことごとく家に入れてもらえなかったためしが無かったので、家で飼ってやらせるとは思い及ばず、後ろ髪を引かれる思いで子猫を置いて登校した。

その日学校から戻るなり、いの一番に子猫を見つけた。けれどもう子猫の姿は無く、あちこち探してみたが見あたらず、あきらめて家路についた。

猫を恋うる歌

そうしたら、なんとその子猫は母に拾われて、我が家にいた。それから、我が家に居るいたその子猫は、はじめに誰かがその子を「ニャンコ」と呼んで、そのまま呼び名は、ニャンコになった。ニャンミャーと鳴いていた子猫はまたたく間に大きくなり、いつしか子猫が生